



# スパークス・ M&S・ジャパン・ファンド

愛称 華咲く中小型

追加型投信/国内/株式

- 当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが作成した販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。



お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お申込みは

■ 設定、運用は



スパークス・アセット・マネジメント株式会社

商号等：スパークス・アセット・マネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号  
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、日本証券業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当ファンドは、誰もが良いと考え  
市場から注目されている企業ではなく、  
これから良いと気づかれる企業、  
つまり、

“これから華咲く” 中小型株  
に投資します

日本には、様々な社会変化の中でも  
独自の強みを持つ  
企業が多数存在します

一方でそういった企業は  
必ずしも市場から注目されている  
企業ばかりとは限りません

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド  
(愛称:華咲く中小型)は、  
ボトムアップ・リサーチを通じ、長期的に  
市場平均を上回る高いリターンを目指します

# 当ファンドの魅力

当ファンドは、主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)を通じて、日本の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。

## Point 1

### 独自の要因で成長が期待できる、 “これから華咲く”中小型株に投資

中長期的な成長が期待できるものの、何らかの理由で市場から注目されていない中小型株に投資します。

## Point 2

### 多数の投資機会が存在する中小型株

中小型株は銘柄数は多い一方、大型株と比べて情報量が少なく、アクティブファンドが優位性を発揮しやすいと考えられます。

## Point 3

### 社会の構造変化から投資機会を発掘

徹底的なボトムアップ・リサーチにより誰もが注目している投資機会だけでなく、より長期的な成長が期待できる魅力的な投資機会を見つけ出し、長期的に高いパフォーマンスの実現を目指します。

# 当ファンドの運用実績

## 基準価額・純資産総額 (2026年1月末日現在)

基準価額 (1万口当たり)	52,491 円
純資産総額	162.69 億円
運用期間	19年

## 過去のパフォーマンス (2026年1月末日現在)

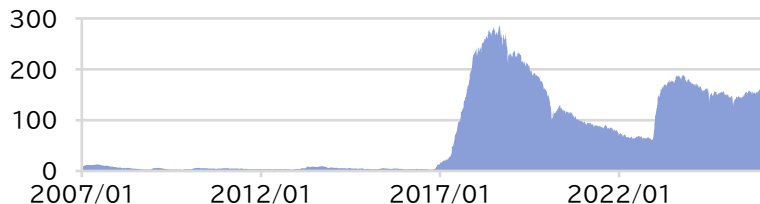
	当ファンド	ベンチマーク	差異
3ヶ月間	8.75%	10.26%	-1.51%
6ヶ月間	16.85%	22.18%	-5.33%
1年間	29.99%	34.01%	-4.02%
3年間	67.53%	90.27%	-22.74%
5年間	83.64%	112.53%	-28.89%
設定来	507.64%	232.64%	275.00%
年率リターン	9.76%	6.40%	3.36%
年率リスク	19.48%	19.99%	-0.51%

## 直近の分配実績 (1万口当たり、税引前)

計算期末	金額
第16期(2023年1月25日)	350 円
第17期(2024年1月25日)	360 円
第18期(2025年1月27日)	390 円
第19期(2026年1月26日)	470 円
設定来累計	4,120 円

## 純資産総額の推移 (億円)

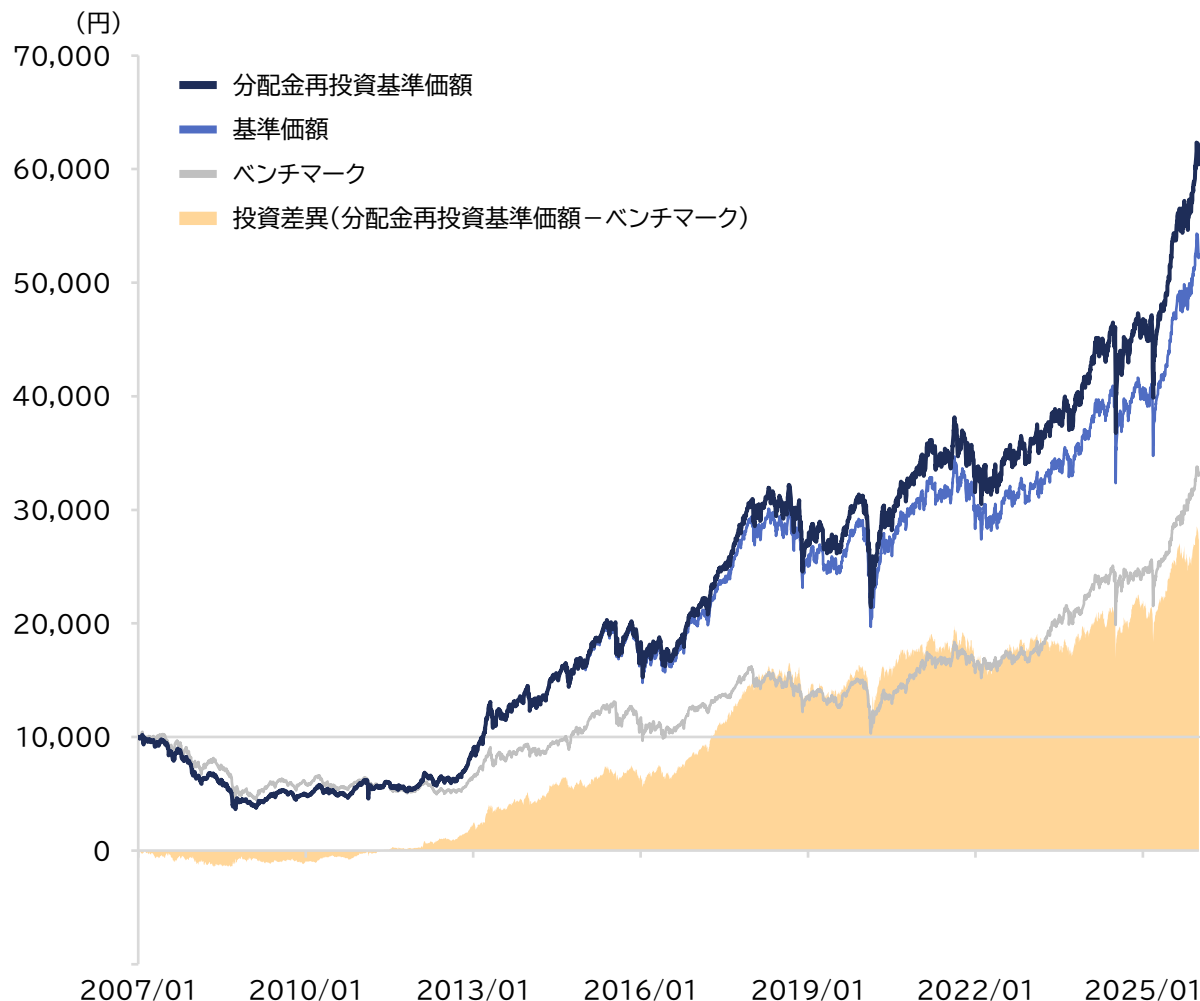
設定日前営業日 (2007年1月30日) ~ 2026年1月30日



設定日前営業日(2007年1月30日=10,000)~2026年1月30日

※ 当初設定日:2007年1月31日

※ ベンチマーク:ラッセル/ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)



※ 基準価額は信託報酬控除後です。過去のパフォーマンスは分配金再投資基準価額の月末値をもとに計算しています(表示桁未満の数値は四捨五入)。

※ 分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の基準価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って実際の投資家利回りは異なります。

※ 当ファンドのベンチマークは、ラッセル/ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)ですが、当ファンドはベンチマークに連動するものではありません。

※ 年率リターンは計算期間における年率(1年換算)の収益率、年率リスクは計算期間における年率リターン(1年換算)の変動度合いを示しています。

※ 当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

出所：スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

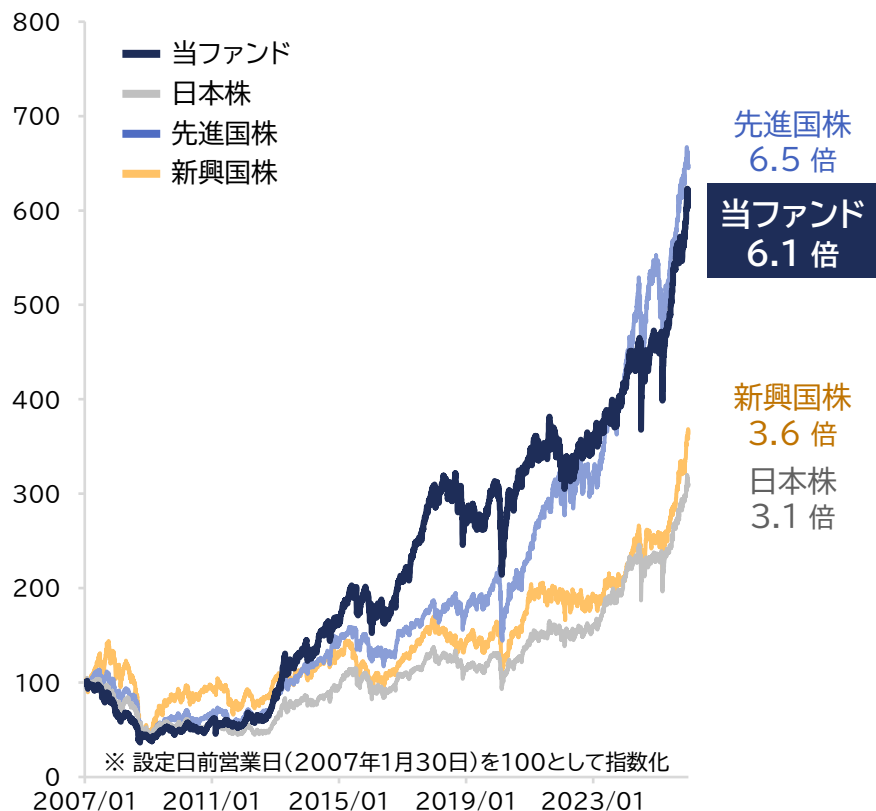
# 長期的に優れた運用実績

- 当ファンドはこれまで代表的な株式資産クラスと比較しても長期的に高いパフォーマンスを実現してきました。
- 高パフォーマンスに加え、リスクを抑えつつリターンも高めることができ、質の高い運用実績を挙げてきたことがお分かりいただけます。

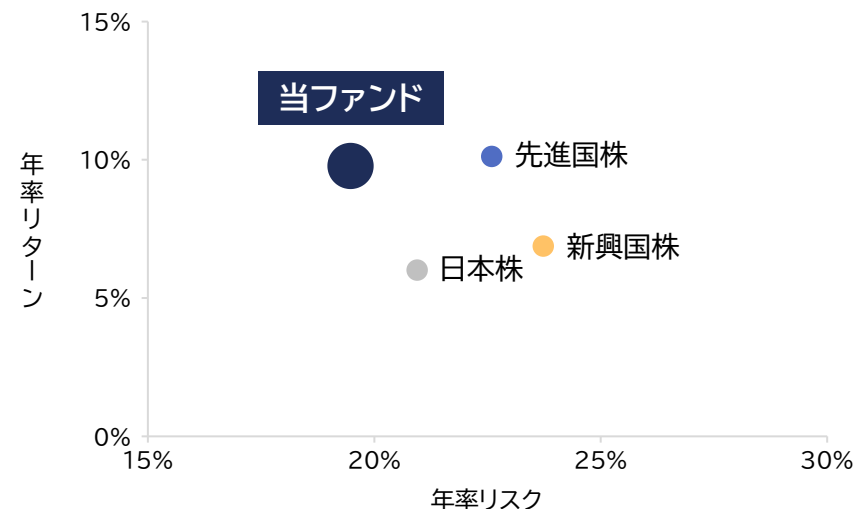
## 代表的な株式資産クラスとの比較

(設定日前営業日(2007年1月30日)~2026年1月30日)

### パフォーマンス比較



### リスク・リターン比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株
年率リターン	9.8 %	6.0 %	10.1 %	6.9 %
年率リスク	19.5 %	20.9 %	22.6 %	23.7 %
リターン/リスク	0.50	0.29	0.45	0.29

※ リターン/リスクは数値が高いほど効率の良い運用が出来ていることを表します。

※ 当ファンドは分配金再投資基準価額を用いて算出しています。分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って実際の投資家利回りとは異なります。

※ 当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

※ 代表的な株式資産クラスにおける各資産クラスの指数は次の通りです。日本株：東証株価指数(TOPIX(配当込み))、先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)、新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

出所：スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# ～ “これから華咲く” 中小型株に投資 ～ “これから華咲く” 中小型株とは？

- 当ファンドが投資をするのは、株式市場が既に良いと考えている企業ではなく、これから良いと気付かれる、つまり“これから華咲く” 中小型株です。
- 市場から注目されていないものの、企業独自の要因で中長期の成長が期待できる華咲く中小型株に投資し、安定的に高いリターンの創出を目指します。

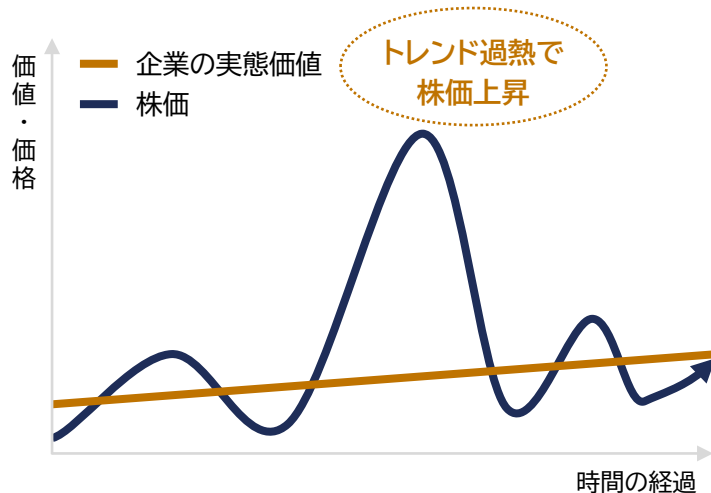
当ファンドが投資する企業は、株式市場が既に良いと考えている企業ではなく、

“これから華咲く(=良いと気付かれる)” 中小型株

➡ 中長期的な成長が期待できる銘柄に投資し、安定的に高いリターンの創出を狙う

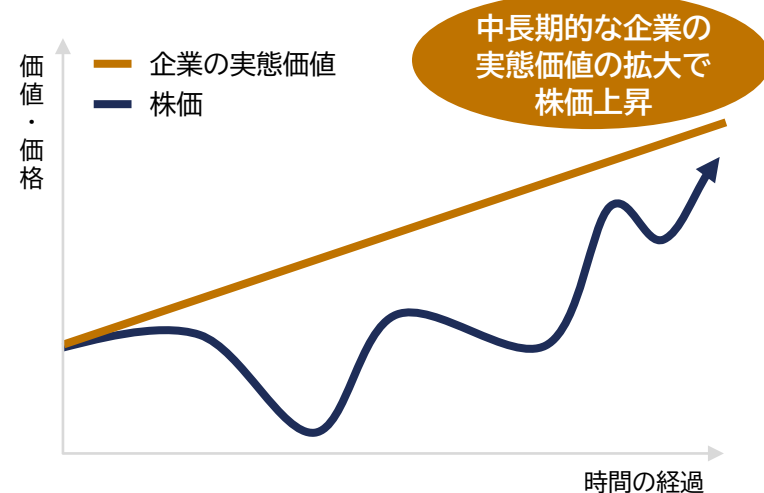
## 株式市場が既に良いと考えている企業

一時的なトレンドの過熱から株価上昇し、  
中長期的な上昇が見込めるかはわからない(実態価値<期待値)



## “これから華咲く” 中小型株

市場から注目されていないものの、企業独自の要因で  
中長期的な株価の上昇が期待できる(実態価値>期待値)



※ 上記は当ファンドへの理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースを網羅したものではなく、将来の結果をお約束するものではありません。  
出所：スパークス・アセット・マネジメント  
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# ～ “これから華咲く” 中小型株に投資 ～ 下落リスクを抑えた運用

- 当ファンドが投資対象とする“これから華咲く”中小型株は、割安性と成長性を兼ね備えていることから、株価の下落リスクを抑えた運用が可能と見込まれます。過去の株式市場の急落局面においても、ベンチマークよりも早く急落前の価格水準に戻りました。

## リーマン・ショックを発端とした株価下落局面

2008年8月29日～2013年4月30日



### < 急落前の水準に戻るまで要した期間 >

当ファンド	ベンチマーク
約2年5ヶ月	約4年7ヶ月

## チャイナショックを発端とした株価下落局面

2015年7月31日～2017年7月31日



### < 急落前の水準に戻るまで要した期間 >

当ファンド	ベンチマーク
約1年4ヶ月	約1年7ヶ月

※ 分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の基準価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って実際の投資家利回りとは異なります。

※ 当ファンドのベンチマークは、ラッセル/ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)ですが、当ファンドはベンチマークに連動するものではありません。

※ 当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

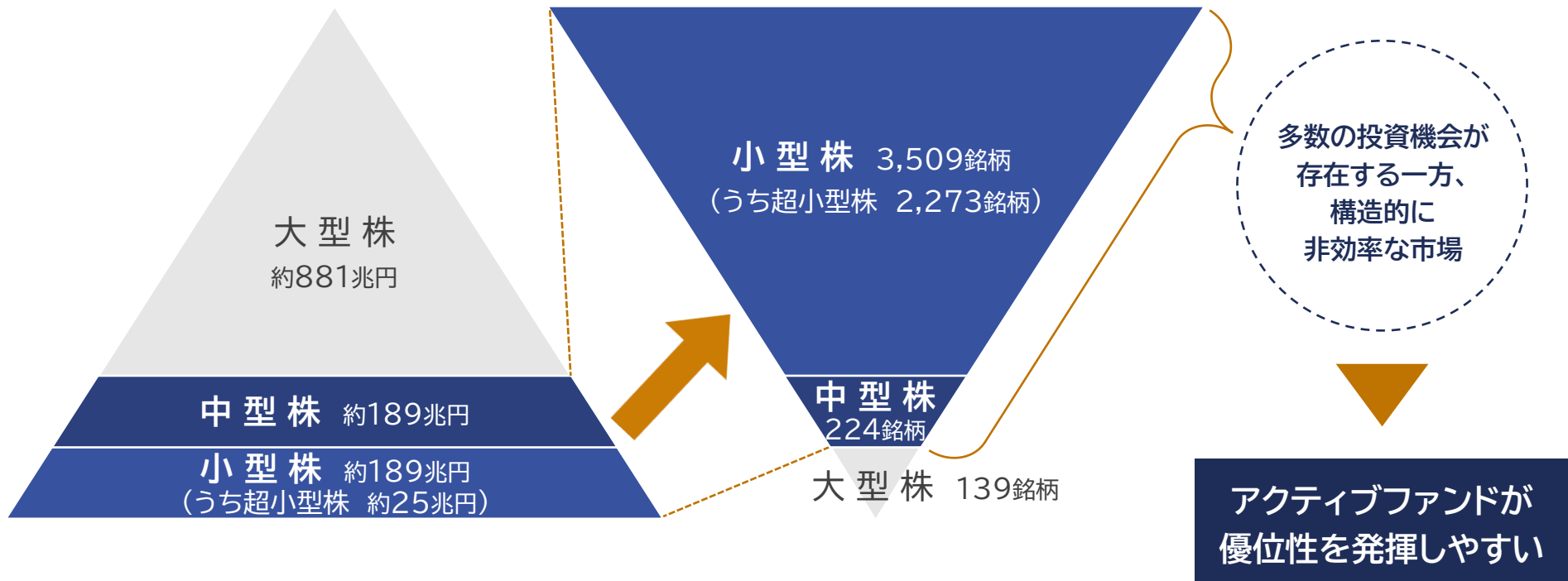
出所：スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# 魅力的な“華咲く中小型”の投資ユニバース

- 当ファンドの実質的な主要投資対象である中小型株は、日本の全上場銘柄数の9割以上が該当し、多数の投資機会が存在します。
- 中小型株は投資機会は多い一方、情報量は大型株と比較して少なく、全てをカバーするのは現実的ではないため構造的に非効率な市場であるといえます。
- そのため、銘柄選択効果による超過収益の獲得が期待できるアクティブファンドにおいては、優位性を発揮しやすい市場であると考えています。

## 日本株式市場の規模別時価総額と銘柄数



■ 大型株	(時価総額の上位70%以上)	時価総額約1兆6,408億円以上)
■ 中型株	(時価総額の下位30%～15%)	時価総額約4,815億円以上、1兆6,408億円未満)
■ 小型株	(時価総額の下位15%～2%)	時価総額約342億円以上、4,815億円未満)
■ 超小型株	(時価総額の下位2%以下)	時価総額約342億円未満)

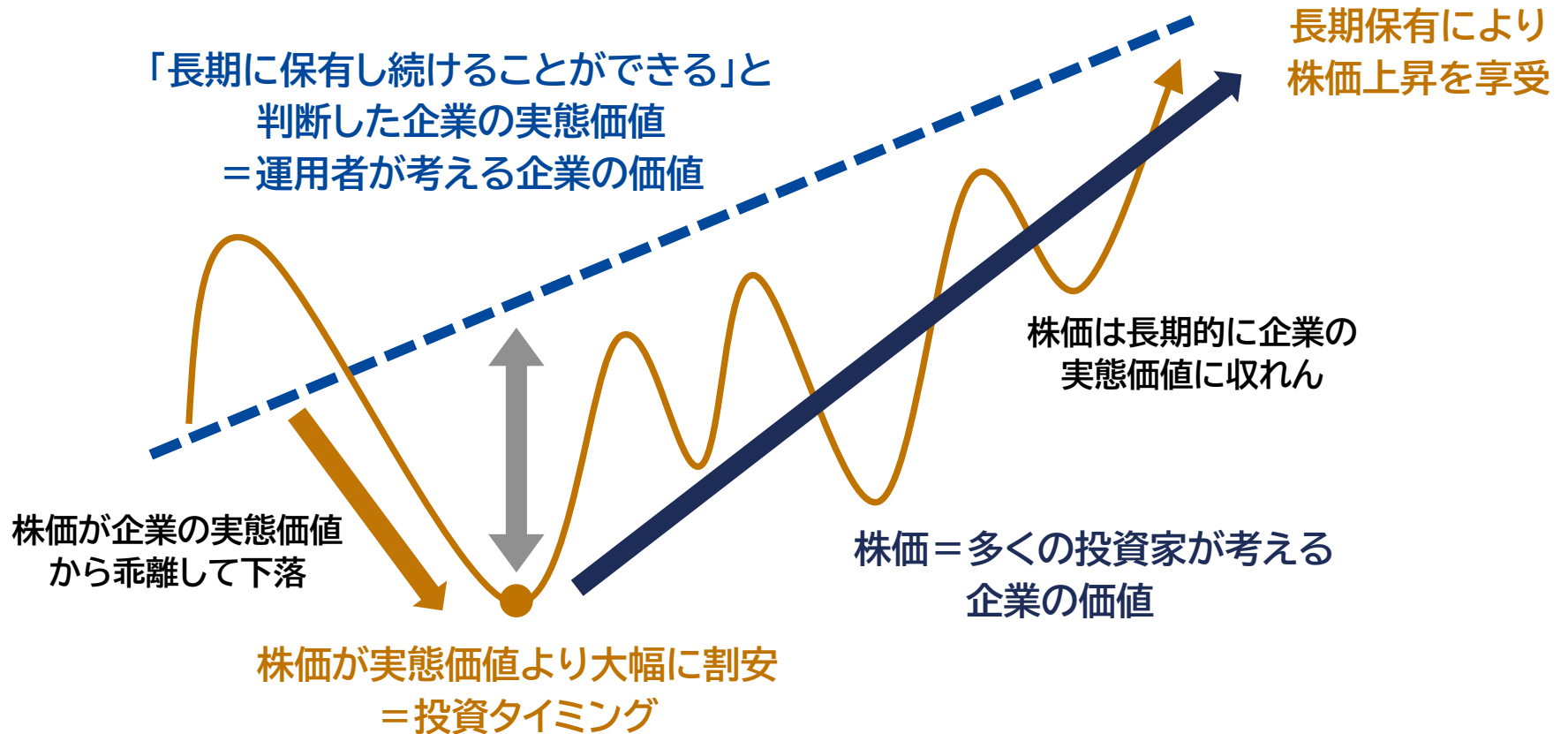
※ 上記はスパークス・アセット・マネジメントの定義

～ 多数の投資機会が存在する中小型株 ～  
“良い会社を安く買う”ことの重要性

- 企業の実態価値に対して割安な価格で投資することで、高いリターンの実現が期待される

株価は、長期的には企業の実態価値を反映すると考えられますが、短期的には足元の業績などで割高や割安に振れることがあります。当ファンドでは、魅力的と判断した企業の株価が、その実態価値から乖離して下落したときに購入し、一時的な株価下落にとらわれることなく忍耐強く長期に保有することで、株価が実態価値に向けて上昇する過程でリターンを獲得することを目指します。

当ファンドの投資の考え方（イメージ図）

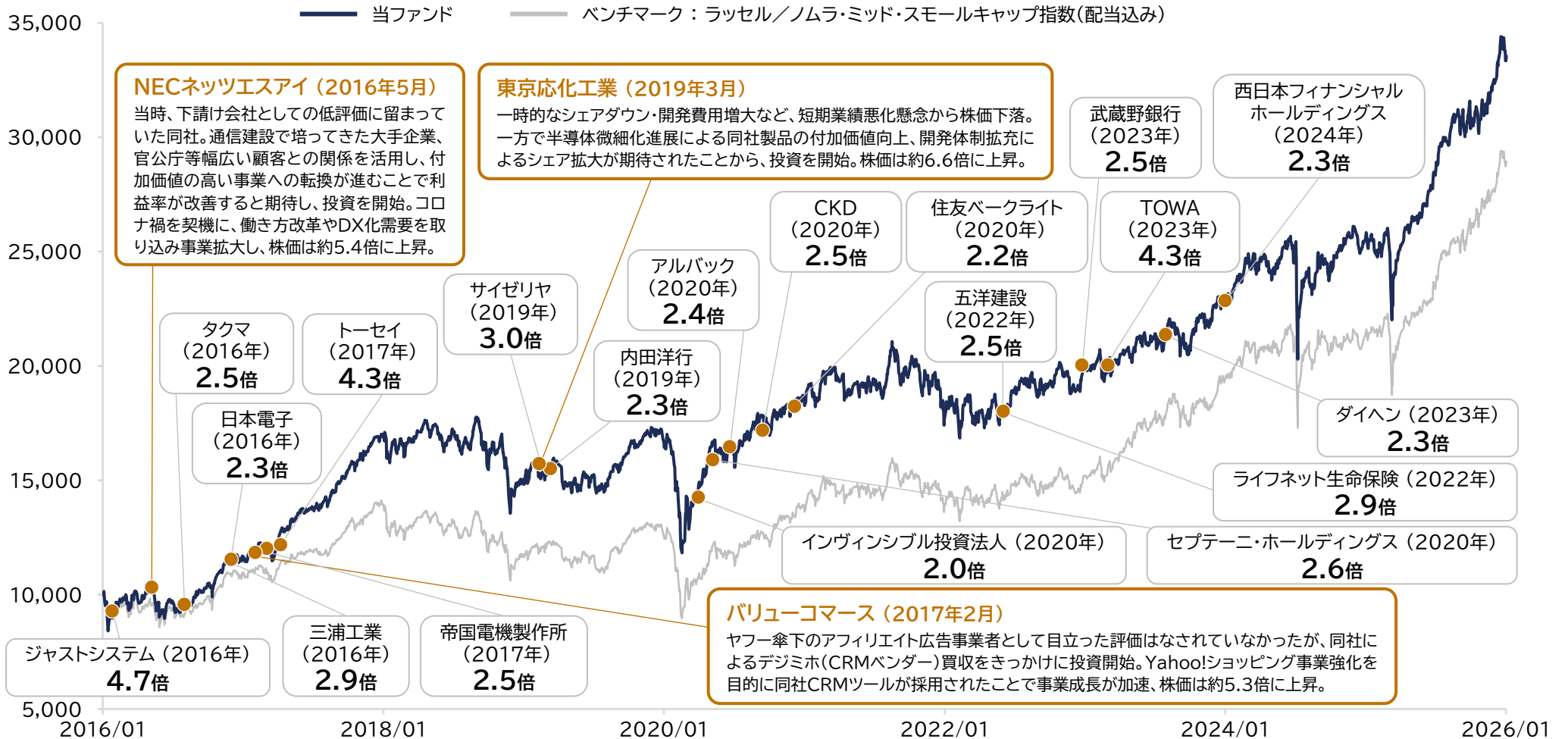


※ 上記は当ファンドの投資戦略の理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースに当てはまるものではなく、当ファンドの将来の結果をお約束するものではありません。  
出所：スパークス・アセット・マネジメント  
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

～ 多数の投資機会が存在する中小型株 ～  
株価が2倍以上となった主な投資先企業

当ファンドのパフォーマンス推移 (直近10年間) と主な投資先企業\*

2016年1月29日(=10,000)～2026年1月30日



\* 銘柄名称の横および下に記載された年月は当ファンドにおける投資開始年(月)、下に記載された数字は当ファンドの投資期間に株価が何倍上昇したかを表します。  
 ※ 当ファンドとベンチマークは2016年1月29日を10,000として指数化しています。  
 ※ 当ファンドは分配金再投資基準価額を示しています。  
 ※ 分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の基準価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って実際の投資家利回りとは異なります。  
 ※ 当ファンドのベンチマークは、ラッセル/ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)ですが、当ファンドはベンチマークに連動するものではありません。  
 ※ 当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。  
 ※ 上記は当ファンドの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。

出所：スパークス・アセット・マネジメント、FactSet Pacific Inc.  
 本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# 株価が2倍以上となった企業事例：アルバック（6728）

## 株式会社アルバックとは？

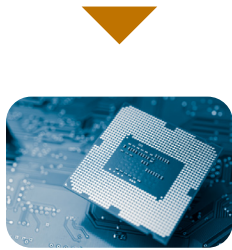


- 1952年に松下幸之助など6名の支援者の出資により設立。時代の変化とともに祖業である真空技術を発展させ、様々な真空装置を提供している。
- 1973年に大手電機メーカーの液晶ディスプレイ搭載電卓開発に同社の装置が貢献したことをきっかけに、液晶ディスプレイ用成膜※装置の事業が拡大。
- 2010年以降は、半導体製造プロセスの成膜用製造装置の開発・製造に参入、半導体及び電子部品製造装置事業を本格化。コンポーネント事業とともに高収益な事業構造を構築している。

**【成膜とは】**

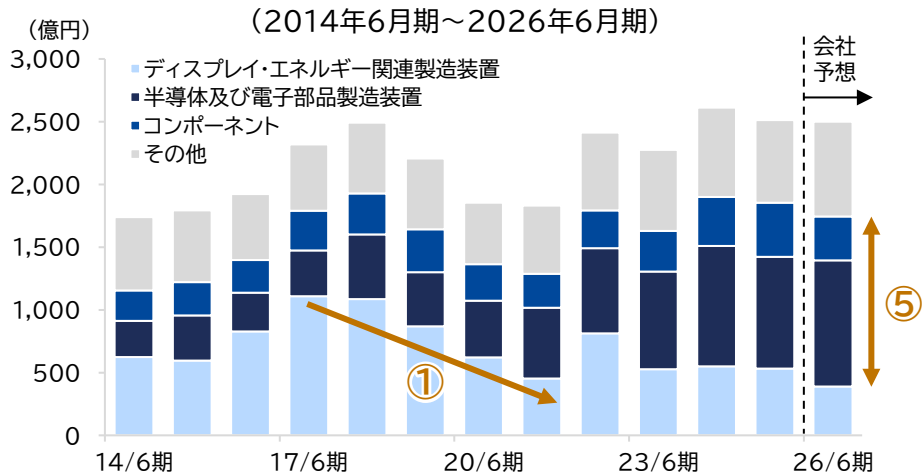
半導体製造の前工程における基礎部分となるプロセス。シリコンウェハの表面に薄い金属膜を形成し、回路の素材となる層を作る。成膜プロセスには「ナノ（食品用ラップフィルムの約1万分の1の薄さ）」単位の精度が求められる。

## 「華咲く中小型」の投資行動

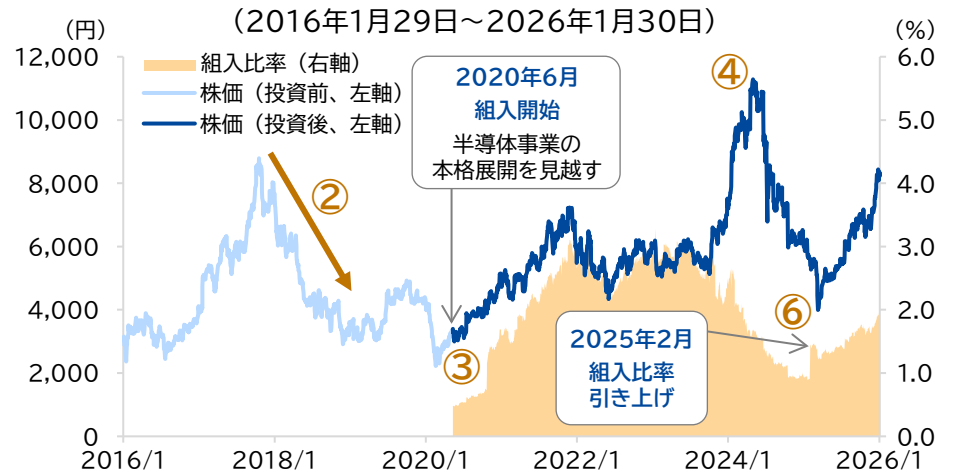


- ディスプレイ・エネルギー関連製造装置事業の売り上げが2017年6月期をピークに減少し、2021年6月期には約6割減に（**下図①**）。株価も大幅に下落（**同②**）。
- 半導体事業の本格展開を見越し、2020年6月に組み入れを開始（**同③**）。顧客の設備投資の回復・拡大などを受け、株価は大きく上昇（**同④**）。利益確定のため一部売却を実施。半導体及び電子部品製造装置の着実な成長と収益体質の向上を確認（**同⑤**）。
- 株価下落後、2025年2月に組入比率引き上げ（**同⑥**）。

### アルバックの事業別売上高推移



### アルバックの株価推移（直近10年）



※ 左下グラフの2026年6月期は会社予想値です。  
 ※ 上記は当ファンドの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、過去の実績等は将来の結果をお約束するものではありません。  
 ※ 画像はイメージです。  
 出所：FactSet Pacific Inc.、会社開示資料をもとにスパークス・アセット・マネジメント作成（2026年1月末日現在）  
 本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# 社会の構造変化に着目して投資機会を発掘

- 当ファンドでは、徹底的なボトムアップ・リサーチに基づき、魅力的な投資機会から“これから華咲く”中小型株を見つけることで長期的なリターンの実現を目指します。
- 当ファンドでは、“これから華咲く”中小型株の成長が加速するきっかけとなる社会の構造変化にも着目しながら投資先企業の選定を行っています。

## 社会の構造変化による当ファンドの投資機会



### 設備投資需要の拡大

- ・ 甚大化する災害への対策や、老朽化インフラの更新需要に伴って増加する産業資材など、構造的な需要拡大の恩恵を受ける企業  
組入銘柄例：前田工織（7821）
- ・ 国内土木工事の大型案件増加や、海外事業の不採算案件一巡を背景に、中長期の業績拡大が期待される企業  
組入銘柄例：五洋建設（1893）



### 深刻化する人手不足への対策

- ・ 従業員への福利厚生サービス拡充や、人事業務の外部委託増加の恩恵を受ける企業  
組入銘柄例：リログループ（8876）
- ・ 物流の省人化や合理化需要の高まりから、自社の高効率な物流施設の利用拡大が期待される企業  
組入銘柄例：トラスコ中山（9830）



### インフレ転換による変化

- ・ 物価と賃金の好循環を背景に収益の正常化が期待される企業  
組入銘柄例：西日本フィナンシャルホールディングス（7189）、大垣共立銀行（8361）
- ・ 生活防衛意識の高まりを受け、低価格帯の商品を効率的に提供する店舗の積極出店が期待される企業  
組入銘柄例：大黒天物産（2791）

※ 上記は当ファンドの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。

※ 画像はイメージです。

出所：スパークス・アセット・マネジメント

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# 過去の投資事例：Genky DrugStores (9267)

## Genky DrugStores株式会社とは？

- 1988年に福井県に1号店を創業した生活必需品を安く提供する地域密着型ドラッグストア。7,000人程度の小商圈をターゲットにしており、ドラッグストアでありながら生鮮品・総菜等も販売。
- 店舗形態を統一することで運営コストを抑え、福井・石川・岐阜・愛知・滋賀など北陸～東海を中心に効率的な出店を進めている。
- 出店用地取得から食品加工、物流センターなど直営展開を軸とした堅実経営を展開している。

7,000人程度の  
小商圈をターゲット



店舗形態を統一することで  
運営コストを抑制

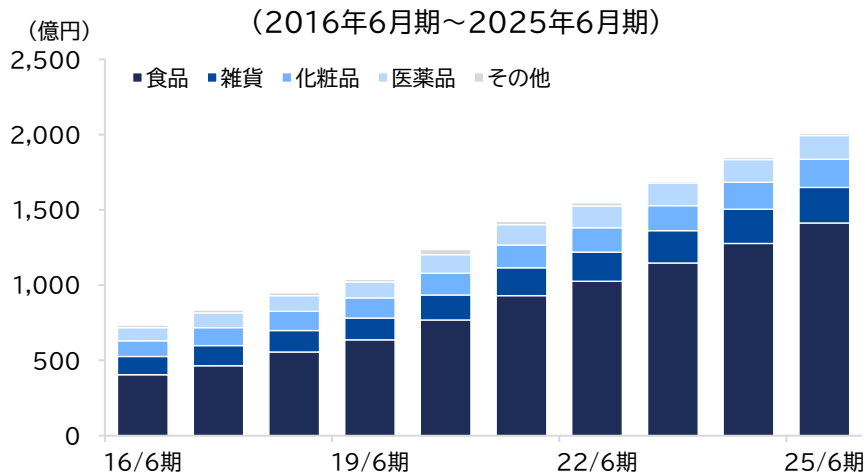
## 「華咲く中小型」の投資行動

### ■ 投資仮説

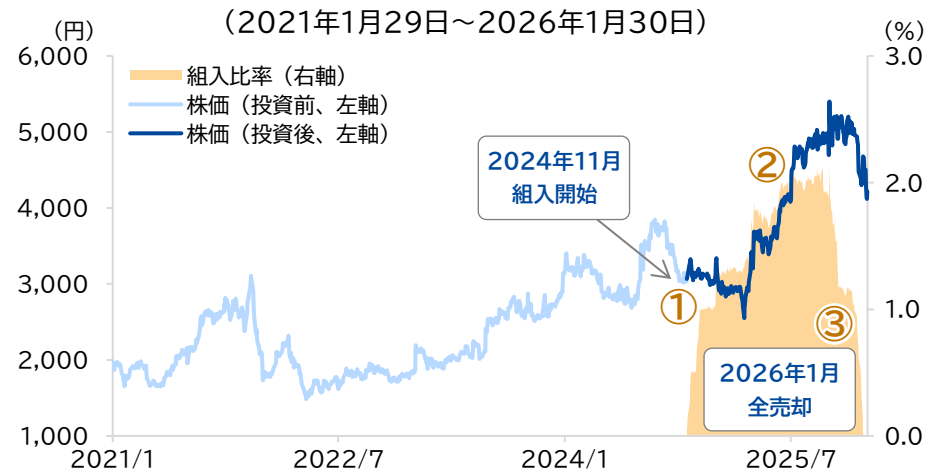
所得格差が広がる中で、低所得者の選別的な消費行動が強まっていることから、食料品・日用品等の生活必需品を安価に提供する同社がスーパーやコンビニからシェアを奪うと見込まれる。

- 企業調査を経て、同社の店舗フォーマット\*が固まり今後の出店数増加の期待値が高まったと判断し、2024年11月に組み入れを開始(下図①)。
- 相対的に安価に食品を提供することで顧客基盤を拡大してきたことや、1か所で買い物をすませることができる利便性などが評価され、株価が大きく上昇(同②)。
- 割安感が薄れたと判断し、全売却をして利益を確定(同③)。

## Genky DrugStoresの事業別売上高推移



## Genky DrugStoresの株価推移 (直近5年)



\* 来店頻度・客層・価格帯・商品構成などに基づく店舗モデルのこと。

※ 上記は当ファンドの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、過去の実績等は将来の結果をお約束するものではありません。

※ イラストはイメージです。

出所：FactSet Pacific Inc.、会社開示資料をもとにスパークス・アセット・マネジメント作成 (2026年1月末日現在)

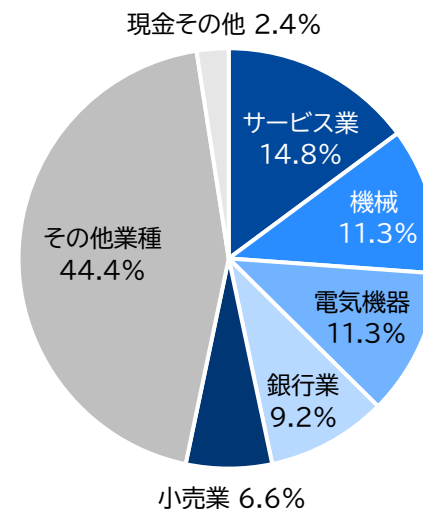
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

### 組入上位10銘柄

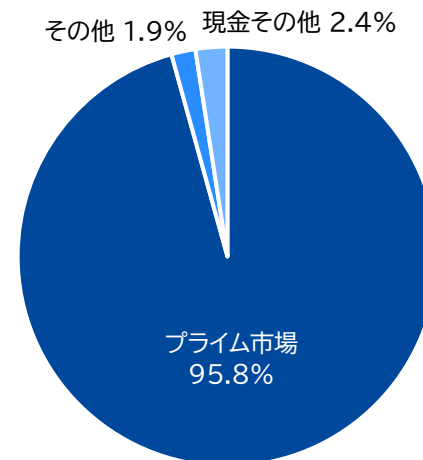
組入銘柄数：66銘柄

順位	コード	銘柄名	業種	組入比率
1	7189	西日本フィナンシャルホールディングス	銀行業	4.7%
2	7821	前田工織	その他製品	3.6%
3	8361	大垣共立銀行	銀行業	2.5%
4	6622	ダイヘン	電気機器	2.4%
5	6407	CKD	機械	2.4%
6	7240	NOK	輸送用機器	2.3%
7	6315	TOWA	機械	2.2%
8	6284	日精イー・エス・ビー機械	機械	2.2%
9	5201	AGC	ガラス・土石製品	2.2%
10	8377	ほくほくフィナンシャルグループ	銀行業	2.1%

### 業種別保有比率



### 市場別保有比率



※ スパークス・M&S・ジャパン・ファンド(「当ファンド」)は、親投資信託である「スパークス・日本中小型株・マザーファンド(「マザーファンド」)の受益証券を主要投資対象とし、ファミリーファンド方式による運用を行います。上記および本資料に記載されている個別銘柄に関する内容は、当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報となります。

※ 上記の比率はマザーファンドの対純資産総額をもとに計算しています。

※ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

出所：スパークス・アセット・マネジメント

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

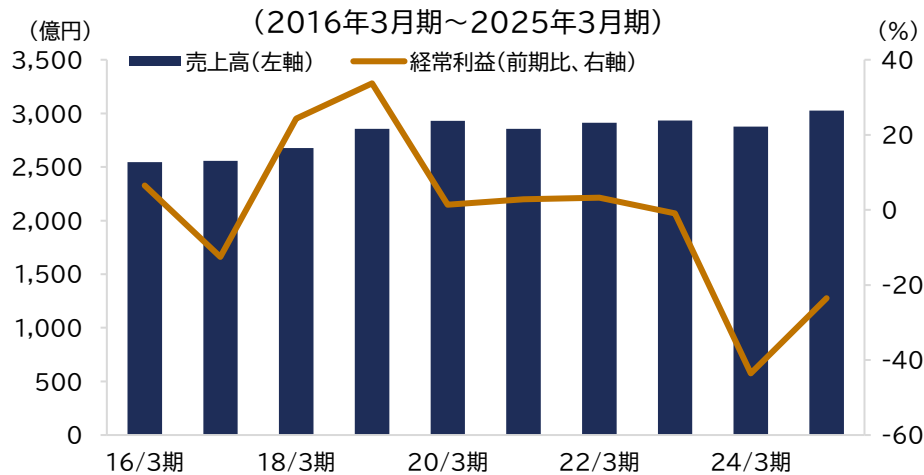
# 投資銘柄のご紹介：福山通運 (9075)

## 福山通運株式会社とは？

- 全国約400の自社拠点を基盤に、企業間物流(BtoB)を中核とする総合物流企業。不特定多数の荷主から集荷した貨物を混載して輸送する「特別積み合わせ貨物運送」を中核事業としており、迅速で安定した配送体制を構築している。
- 2025年にセンコー(本社:大阪)との関東・関西間の共同輸送を開始。浜松に中継拠点を設け荷物を交換して双方が折り返すことで、輸送効率を高め、運転手の長時間労働も防ぐ。



## 福山通運の売上高と経常利益の推移



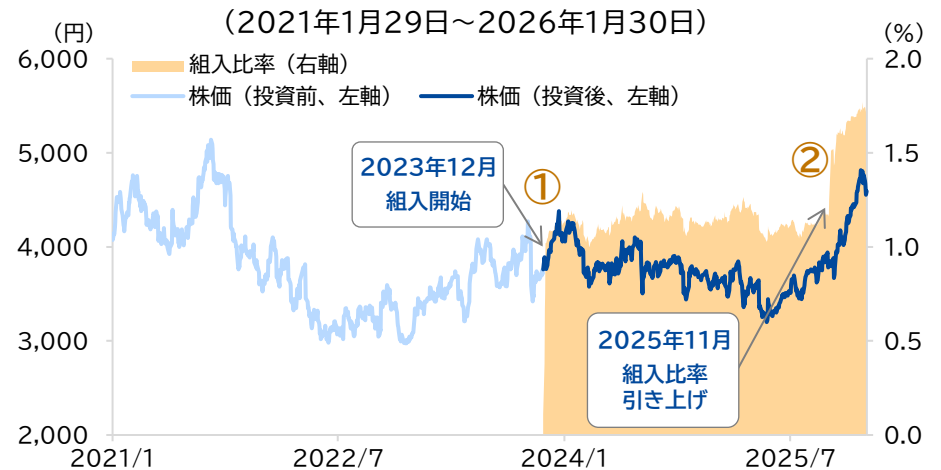
## 「華咲く中小型」の投資行動

### ■ 投資仮説

労働者不足や労働時間短縮などによってトラックの輸送能力が不足。従来の業界構造や取引慣行などを打破し、安価に抑えられてきた同社提供サービスの価格転嫁が進展する。

- 物量減少で価格改定が進まないなどの業績悪化懸念から株価は低位なもの、値上げ機運の高まりや資本政策の転換などの変化が水面下で進展しつつあると判断し、2023年12月に組み入れを開始(下図①)。
- 発表された決算内容を評価し、組入比率を引き上げ(同②)。株価も大きく上昇。

## 福山通運の株価推移 (過去5年)



※ 上記は当ファンドの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、過去の実績等は将来の結果をお約束するものではありません。

※ イラストはイメージです。

出所：FactSet Pacific Inc.、会社開示資料をもとにスパークス・アセット・マネジメント作成 (2026年1月末日現在)

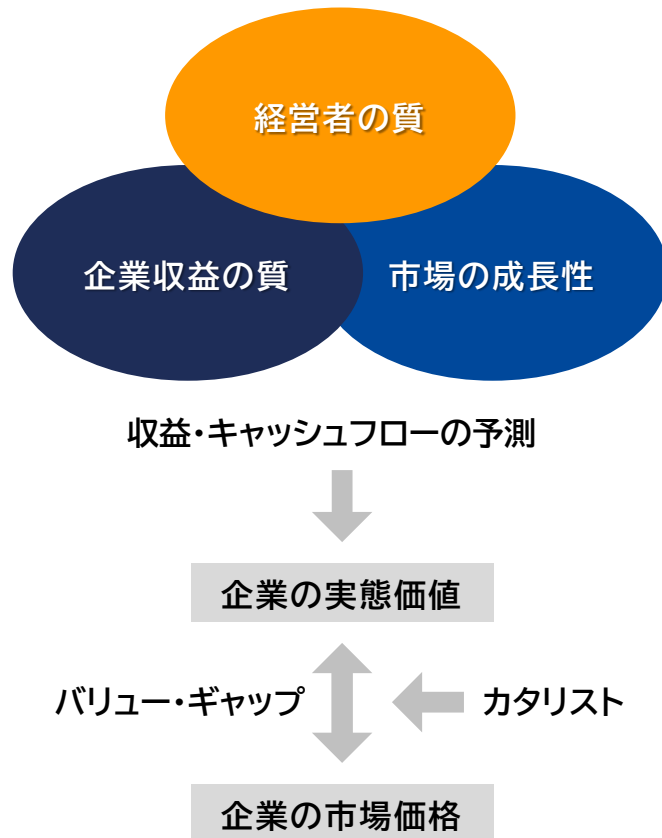
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# スパークスのインベストメント・アプローチ

- 創業以来一貫した投資哲学

## 「マクロはミクロの集積である」

徹底した現場リサーチ重視  
年間3,400回以上の企業調査※



### 01 企業の実態価値の把握

3つの着眼点(経営者の質、企業収益の質、市場の成長性)から企業の実態価値を計測する。

### 02 バリュウ・ギャップの把握

実態価値と市場価格(株価)の差、バリュウ・ギャップを計測する。

株価と企業の実態価値を比較した場合、何らかの理由によって一致していない場合が多く、このバリュウ・ギャップを投資機会と捉えます。

バリュウ・ギャップが大きいほど、投資の候補となりますが、それだけでは十分ではありません。

### 03 カタリスト(きっかけ、要因)を探る

バリュウ・ギャップを埋めるカタリストを勘案し、投資を決定する。

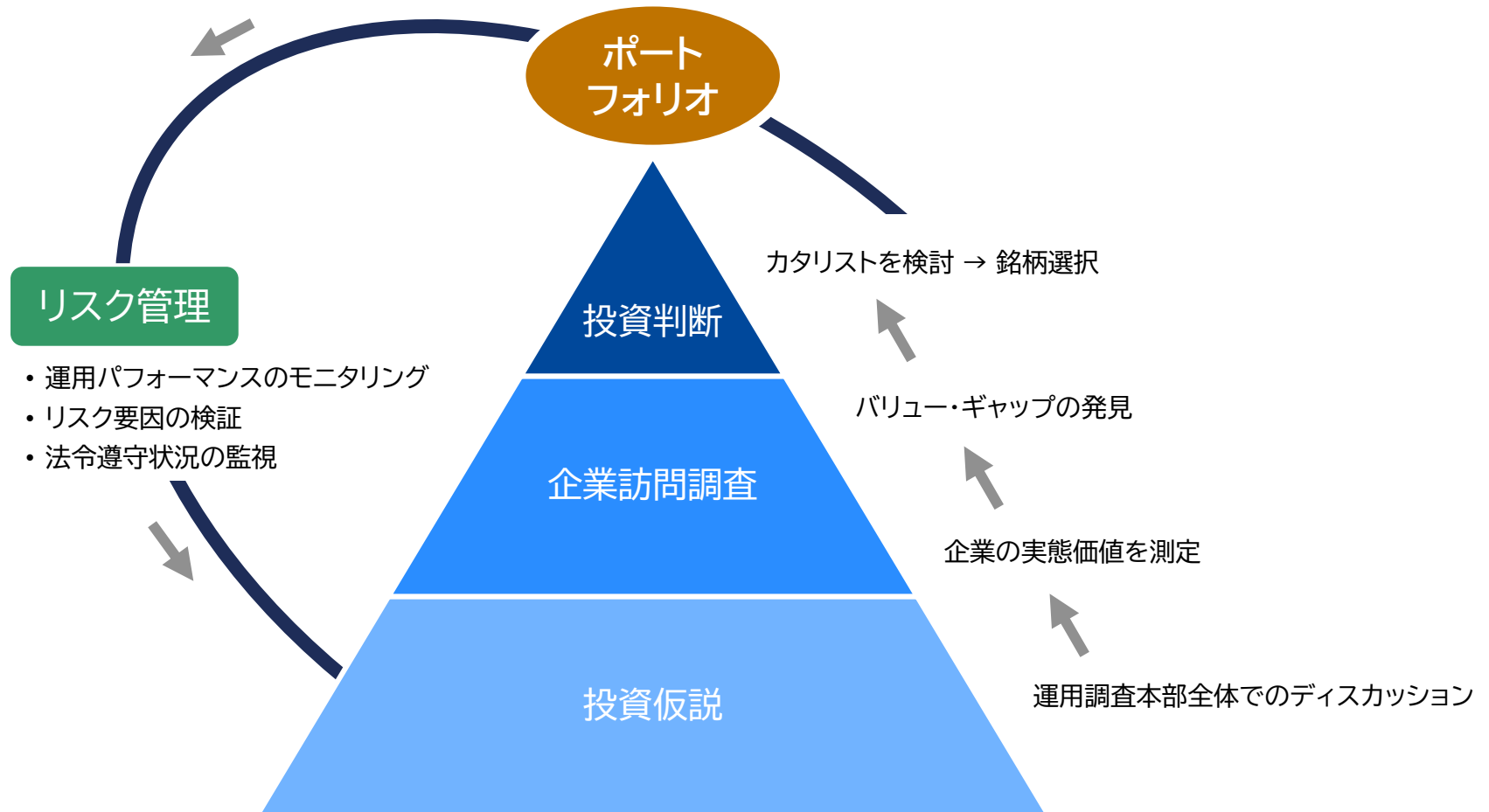
カタリスト(きっかけ、要因): 株価が実態価値へと収れんするプロセス(バリュウ・ギャップの解消)を促すきっかけ・要因をカタリストと言います。企業調査をする際に、もう一つの重要な要素となります。

※ 2025年の実績ベース

出所: スパークス・アセット・マネジメント

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# 運用プロセス



市場動向やファンドの資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

※ 上記は当ファンドへの理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースに当てはまるものではなく、将来の結果をお約束するものではありません。

出所：スパークス・アセット・マネジメント

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# SPARXについて



## スパークス・グループ株式会社

代表取締役社長・グループCEO・グループCIO

## 阿部 修平

1980年、ボストンのバブソンカレッジでMBA取得。1981年、野村総合研究所に入社後、ニューヨークのノムラ・セキュリティーズ・インターナショナルに出向し、米国の機関投資家向けの日本株のセールスに従事。1985年にニューヨークで独立し、ジョージ・ソロス氏から1億ドルの運用を任される。1989年、日本でスパークス投資顧問(現スパークス・グループ)を設立。2001年に上場。2005年、ハーバード大学ビジネススクールでAMP修了。2012年より国際協力銀行(JBIC)リスク・アドバイザリー委員会委員を務める。

## ジョージ・ソロス氏のもとで働いた阿部修平が創業

- スパークスの創業者である阿部修平は1985年にニューヨークで独立し、世界的に著名な投資家、ジョージ・ソロス氏に1億ドルの運用を任されました。
- ソロス氏に徹底的に鍛えられた投資哲学をもとに株式運用で長期間優れた実績を出してきました。

## 革新的な投資戦略を実践し、数々の受賞実績

スパークスは日本株式の運用会社として創業しました。現在ではアジア株式運用や再生可能エネルギーへの投資、ベンチャー・キャピタルなど、長年蓄積した投資ノウハウを活用し、幅広い投資を行っています。

### 《 SPARXグループの主な投資戦略 》

日本株式ロング・ショート投資戦略	OneAsia 投資戦略
日本株式長期厳選投資戦略	日本再生可能エネルギー投資戦略
日本株式中小型投資戦略	日本不動産投資戦略
日本株式マーケット・ニュートラル投資戦略	プライベート・エクイティ投資戦略
日本株式価値創造投資戦略	

## 1989年創業、運用会社では初の上場企業

スパークス・グループ株式会社は1989年に創業、旧JASDAQ市場(銘柄コード8739)に2001年12月に運用会社として初めて上場いたしました。  
運用資産残高は約2兆3,146億円\*となります。(2026年1月末速報値)

\* スパークス・アセット・マネジメント株式会社、スパークス・アセット・トラスト&マネジメント株式会社、スパークス・インベストメント株式会社、SPARX Asset Management Korea Co., Ltd.、及び SPARX Asia Capital Management Limited 並びに関連会社である野村スパークス・インベストメント株式会社(「野村スパークス」)による運用資産残高で構成され、加えてスパークス・グリーンエネルギー&テクノロジー株式会社が管理する発電所等の資産も含めております。なお、当社グループは、直接的・間接的に上記各運用子会社の持分割合の100%を保有しており、また野村スパークスについては2026年1月末日現在49.0%の持分割合を保有しておりますが、上記の数値は当社持分に関わらず運用資産残高の100%を記載しております。

出所：スパークス・アセット・マネジメント(2026年1月末日現在)  
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読みください。

# ファンドの目的、特色

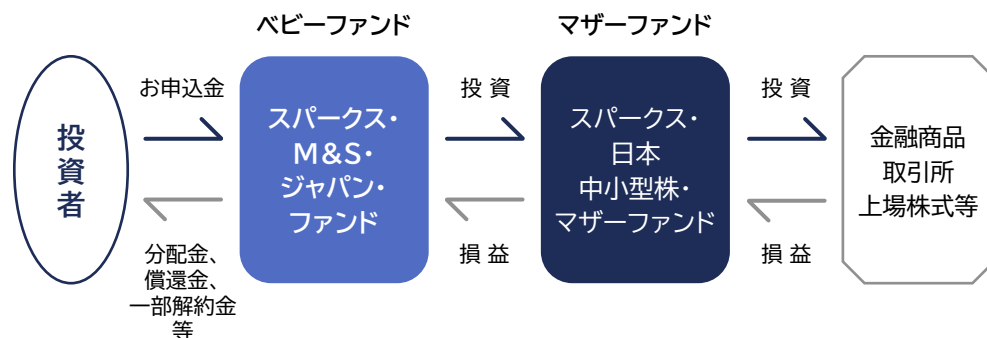
## ファンドの目的

当ファンドは、主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）を通じて、日本の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。

## ファンドの仕組み

ファミリーファンド方式※により、金融商品取引所上場株式への実質的投資を行います。

※ ファミリーファンド方式とは、投資者の皆さまからお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。



## ファンドの特色

- ① 日本の上場株式のうち中小型株式を中心に投資します。  
中小型株式は銘柄数が豊富であり、また高い成長が期待できる企業が多く存在します。
- ② スパークスの徹底したボトムアップ・リサーチで銘柄を選別します。  
中小型株式の調査は1989年のスパークス創業時から行っております。
- ③ ベンチマークであるラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)\*を上回る投資成果を目指して運用します。

ただし、ベンチマークの業種構成比等にはとられません。

\* ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)は、Russell/Nomura日本株インデックスのサイズ別指数です。Russell/Nomura日本株インデックスは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(以下「NFRC」といいます。)が公表している指数で、その知的財産権はNFRC及びRussell Investmentsに帰属します。なお、NFRC及びRussell Investmentsは、ラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がラッセル／ノムラ・ミッド・スモールキャップ指数(配当込み)を用いて行う事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

市場動向やファンドの資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

# 投資リスク

## 基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。**従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。**

### 株価変動リスク

一般に株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況、国内および国際的な政治・経済情勢等に応じて変動します。従って、当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

### 中小型株式等への投資リスク

当ファンドは、中小型株式等へも投資します。こうした株式は、比較的新興であり、発行済株式時価総額が小さく、売買の少ない流動性の低い株式が少なくありません。その結果、こうした株式への投資はボラティリティ(価格変動率)が比較的高く、また流動性の高い株式に比べ、市況によっては大幅な安値で売却を余儀なくされる可能性があることから、より大きなリスクを伴います。

### 信用リスク

組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。

### その他の留意事項

- システムリスク・市場リスクなどに関する事項  
証券市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に換金等ができないこともあります。また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

※ 基準価額の変動要因(投資リスク)は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。  
収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。  
投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

## リスクの管理体制

- 委託会社では、投資リスクを適切に管理するため、運用部門ではファンドの特性に沿ったリスク範囲内で運用を行うよう留意しています。また、運用部門から独立した管理担当部門によりモニタリング等のリスク管理を行っています。
- 委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。
- 取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

# お申込みメモ

購入単位	販売会社が別に定める単位 ※ 詳しくは販売会社までお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
購入代金	販売会社が指定する期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が別に定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込受付を中止することができます。

信託期間	2045年1月25日まで(2007年1月31日設定)
繰上償還	受益権口数が20億口を下回った場合等には、償還となる場合があります。
決算日	毎年1月25日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に収益分配方針に基づいて収益分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合等は、分配を行わないこともあります。 ※ 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
信託金の限度額	1,000億円を上限とします。
公 告	原則として電子公告の方法により行い、ホームページ【 <a href="https://www.sparx.co.jp/">https://www.sparx.co.jp/</a> 】に掲載します。
運用報告書	ファンドの毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、原則として、販売会社を通じて受益者へ交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 原則として配当控除の適用が可能です。

お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

# ファンドの費用等

投資者が直接的に負担する費用			
購入時手数料	購入申込受付日の基準価額に3.3%(税抜3.0%)を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。 ※ 詳しくは販売会社までお問い合わせください。 購入時手数料は、商品の説明、販売の事務等の対価として販売会社が受け取るものです。		
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に対して0.3%の率を乗じて得た額をご負担いただきます。		
投資者が信託財産で間接的に負担する費用			
運用管理費用 (信託報酬)	日々の信託財産の純資産総額に対して年率2.057%(税抜1.87%)を乗じて得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)は、ファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産から支払われます。 運用管理費用(信託報酬) = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率		
信託報酬の配分	支払先	内訳(税抜)	主な役務
	委託会社	年率 1.10%	ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価
	販売会社	年率 0.70%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
	受託会社	年率 0.07%	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
監査費用 印刷費用	監査費用、印刷費用などの諸費用は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%(税抜0.10%)を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産から支払われます。 ※ 監査費用: ファンドの監査人に対する報酬および費用 印刷費用: 有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷および提出等に係る費用		
その他の費用・手数料	組入る有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、その都度信託財産から支払われます。 これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。 ※ 組入る有価証券の売買委託手数料: 有価証券の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 信託事務の諸費用: 投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息		

※ 当該手数料等の合計額については、ファンドの購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

委託会社、その他関係法人	
委託会社	スパークス・アセット・マネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	委託会社までお問い合わせください。

お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

# 留意事項

## <指数に関して>

### 日本株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。TOPIXは、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、JPXはTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

## <免責事項>


- 当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込みを行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)および目論見書補完書面をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。
- 当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。
- 投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。
- 当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。
- 当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。
- 当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。
- 当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。
- 当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

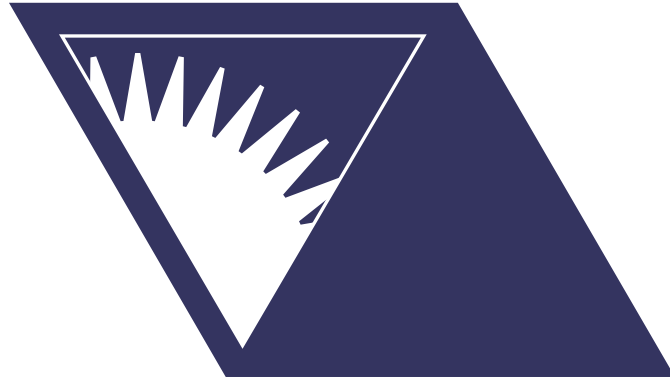
© 2026 SPARX Asset Management Co., Ltd.

【お問合せ先】 スパークス・アセット・マネジメント株式会社

【ホームページ】 <https://www.sparx.co.jp/>

【電話番号】 03-6711-9170 (受付時間：営業日の9:00~17:00)

 **UD FONT** 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



**S P A R X**